

No.42 パラスポーツ体験会

事業の目的

様々なパラスポーツ競技を体験できる事業を通じて、パラスポーツを周知し、競技人口の拡大や理解促進につなげる。

参加者数

	体験者	関係者 ※ボランティアスタッフ等	合計
R 1	60名	42名	102名
R 4	40名	36名	76名
R 5	121名	51名	172名

※R 2、R 3は中止

- ・ R 5年度の参加者数は過去最多を記録。
- ・ 子どもから高齢者まで幅広い年齢層で賑わった。



No.42 パラスポーツ体験会

令和5年度実施内容

(1) 体験ブース

	競技	協力団体
①	車いすバスケットボール	苫小牧車いすバスケットボールクラブ
②	ボッチャ	苫小牧ボッチャクラブ希勇心
③	サウンドテーブルテニス	苫小牧視覚障がい者福祉協会音卓球クラブ
④	パラ陸上	障がい者スポーツ指導員
⑤	フライングディスク	障がい者スポーツ指導員
⑥	車いすソフトボール【新規】	北海道アダプティブスポーツ

◎スタンプラリー形式で各競技を体験し、全ブースを回ると、完走賞として景品を贈呈



No.42 パラスポーツ体験会

(2) ボッチャ体験大会

- ・ 36名12チームが参加（全6試合）
- ・ 参加チームに記念品を贈呈

⇒ 苫小牧市とレッドイーグルス北海道のコラボティッシュ

勝ちチーム1パック（5箱）、負けチーム1箱



No.42 パラスポーツ体験会

(3) スペシャルゲストトークショー

①出演者

体験会PRゲスト	元北海道日本ハムファイターズ	新垣 勇人 氏
パラスポーツクラブ運営者	北海道アダプティブスポーツ代表	齊藤 雄大 氏
現役パラアスリート	苫小牧ボッチャクラブ希勇心	矢木 香織 氏
パラスポーツ指導員	アイススレッジホッケー元日本代表監督	大村 博 氏

②トーク内容

- ・ パラスポーツとの出会い
- ・ 「する人」「見る人」「支える人」の視点
- ・ 今後の取組・目標



No.42 パラスポーツ体験会

事前周知

①各施設への案内・ポスターの掲載依頼

- ・障がい者施設（11件）
- ・保育園・幼稚園（42件）
- ・小学校・中学校（37件）
- ・公共施設（29件）

②市内少年団に開催案内の通知（48件）

③「さくら連絡網」による小・中学生の保護者へ周知

④市の公式HP、LINE、Facebookへの掲載

⑤北海道新聞社、苫小牧民報社に記事掲載依頼

どなたでも参加可能！

とまこまいパラスポーツ体験会

日時 令和6年3月16日（土） 10:00～14:00

場所 苫小牧市総合体育館

参加特典 300pt

《体験競技》

- ・車いすバスケットボール
- ・フライングディスク
- ・ポッチャ
- ・パラ陸上
- ・サウンドテーブルテニス
- ・車椅子ソフトボール

6か所すべて体験すると小麦の奴隷ザックザクカレーパンをプレゼント（先着100名）

10:30までに事前申し込みをしてください。参加特典あり！

新垣さんとパラスポーツについて一緒に考えよう！

スペシャルゲスト

元北海道日本ハムファイターズ 新垣勇人さん

出店

- ・小麦の奴隷苫小牧店
- ・サンドイッチとパンのお店BON

ご参加される皆様へ参加無料 申込不要 ※必ず上履きを持参してください！！

苫小牧市総合政策部スポーツ都市推進課 Tel.0144-34-9601 平053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号 苫小牧市役所 8階

詳細はホームページをご覧ください

No.42 パラスポーツ体験会

▶ 今年度の成果と次年度へ向けて

(1) R5年度の成果

- ①内容の見直しや事前周知の強化による参加者が増加
- ②新競技の追加による体験会の充実
- ③トークショーを通じたパラスポーツや障がいへの理解促進

事業効果が拡大



(2) R6年度へ向けた課題

- ①参加者の拡大に向けた取り組み ⇒ 目標200人以上参加
- ②円滑に体験ブースを回れる仕組みづくり ⇒ 一部ブースの長時間の順番待ちを解消
- ③体験競技内容の検討 ⇒ 新たな競技との出会いを創出
- ④他部署との連携強化 ⇒ 福祉部署などと協力した事業実施体制

